

がっこうほけんいいんかいほうこく 学校保健委員会報告

令和8年10月9日 川崎市立南河原小学校保健室

9月28日(月)に、「学校保健委員会」という会議を行いました。学校保健委員会とは、子どもたちのより良い健康生活について、学校、家庭、地域社会が考える会です。今年度は、学校歯科医保志達信先生、学校薬剤師田中美穂先生、PTA役員井戸田直子さん、学校からは、山口嘉徳校長、小笠原利弘教頭、吉原洋子教諭、養護教諭の今野奈央子が出席し計7名で開催しました。

定期健康診断の結果より

●視力検査について

各学年の1.0可(A)の割合を川崎市の各学年の平均(令和6年度 川崎市学校保健統計調査)と比べたところ、本校の1～2年生は川崎市の平均より9～10%高く、3～5年生は平均より少し上回っていることがわかりました。川崎市の平均より高い学年が多い中、気になることは、中学年になる3年生になると1.0可の児童の割合が大きく下がるということです。

中学年になると、ゲーム解禁など家庭の約束事が変わりゲームや動画に接する機会や時間が増えるのでは？



視力が下がっても、きちんと矯正していればいいのですが・・・。

めがねをかけることに抵抗がある子がいます。

GIGA端末を使った学びが始まって5年程経ちますが、当初は視力低下につながるのではという声がありました。しかし、GIGA端末の影響はほとんどなさそうですね。

※ご出席いただいた井戸田さんに、後日、すてきな絵本を紹介していただきました。ありがとうございます。
『メガネをかけたら』(小学館)
くすのき しげのり 作
たるいし まこ 絵

●尿検査について

本校は非常に回収率がよいです。いつもすばらしいと思っています。学校の尿検査では、時々、大きな腎疾患が見つかることがありますので、全児童に受けさせたい大切な検査です。

●歯科検診について

本校の健全歯の割合は、60～70%台です。健全歯の割合が低い学年がありましたが、むし歯をしっかりと治療をしている様子です。歯列・咬合、歯垢、歯肉の所見が増えています。

●定期健康診断後の受診率(4月から9月中旬 旬まで)について

治療が必要だと思われるご家庭には、「検診の結果のお知らせ」(治療勧告)を配付しています。ただし、歯科検診については、治療の必要がなくても全児童に結果をお知らせしています。早めに受診するご家庭もあれば、夏休みを利用している場合もありました。定期健康診断は「スクリーニング」といって、その病気の疑いがあると思われる人を選び出すものです。そのため、**受診した結果「異常なし」と診断される場合がありますが、病気がみつかった場合は早期発見・早期治療になります。**したがって、まだ受診がお済でない場合は、ぜひ、受診をしてください。

子どもの視力低下は普段気が付かないので、「視力検査の結果のお知らせ」を受け取って、初めて視力低下に気が付くことがあると聞いたことがあります。学校の検診はありがたいです。



「結果のお知らせ(治療勧告)」を保護者が見たら大抵は早めに受診すると思います。保護者の目にふれていない場合があるのかもしれない。

がっこうし か い ほ し たつのぶせんせい
●学校歯科医 保志達信先生より

むし歯について

Q. ぐらぐらしてもうすぐ抜けそうな歯がむし歯になっている場合も、治療したほうがよいでしょうか？

A. ぐらぐらして、まもなく抜けそうな乳歯であれば、むし歯があっても、そのまま経過をみる場合があります。もちろん、むし歯の状態や歯の生え替わりの時期などを確認したうえで、お子さんや保護者の方と相談して判断します。一方、まだぐらぐらしていない乳歯の場合は、永久歯への生え替わりまで期間があるため、むし歯の治療を行います。

歯並びについて

Q. 最近、やわらかいものを食べることが多くなっていますが、食べ物は歯ならびに影響しますか？

A. 歯並びには、遺伝的な要因だけでなく、顎の成長や日頃の生活習慣など、さまざまな要因が関係しています。その中でも、よく噛んで食べることは、顎の発育という点で大切です。歯そのものの大きさは主に遺伝的な要因によって決まるため、よく噛んだからといって歯が大きくなるわけではありません。しかし、成長期にしっかり噛むことは、顎の発達を促すうえで重要です。食べ物の「硬さ」だけを意識するのではなく、「あと5回噛もう」というように、一口ごとに意識してよく噛む習慣をつけるとよいでしょう。また、歯並びが凸凹していると、歯磨きがしづらくなり、磨き残しが増えて、むし歯や歯肉炎につながる場合があります。



親知らずについて

Q. 親知らず（第三大臼歯）を抜くとしたら、何歳ぐらいがよいのでしょうか？

A. 成長期のお子さんの場合、親知らずの抜歯を急いで考える必要はありません。親知らずが正常に生えず、周囲の歯や歯ぐきに悪影響を及ぼす場合には、一般的に18歳から20代前半頃に抜歯を検討することがあります。この時期は、歯の状態によっては、歯根が完成する前で骨も比較的柔らかいため、抜歯しやすい場合があります。ただし、親知らずの位置や生え方には個人差があるため、適切な時期は一人ひとり異なります。

顎関節について

Q. 歯科検診で「顎関節」に注意がつけられている児童がいます。授業で歌の練習をするとき、顎に痛みがある場合は、無理に大きく口を開けないよう配慮しています。歌の練習で顎関節症になることはありますか？

A. 歌の練習だけが原因で顎関節症になることは、通常ありませんので、必要以上に心配する必要はありません。ただし、すでに顎に痛みがある、口が開けにくい、口を開け閉めすると痛みや音がある、といった症状がある場合には、無理に大きく口を開けることは避けたほうがよいでしょう。

がっこうやくざいし たなか み ほ せんせい
●学校薬剤師 田中美穂先生より

インフルエンザなど感染症の予防ですが、**第一に手洗い、うがい**です。換気については、高学年は体が大きくなるにつれて、教室内の二酸化炭素濃度が高くなります。そうすると、インフルエンザに感染するリスクが高まります。窓を開けて換気すると、冬は湿度が下がってしまいます。加湿器があればいいのですが、管理がとても大変で学校での使用は難しいです。冬に向けて、**二酸化炭素と湿度**が心配ですが、先生方の努力に委ねたいと思います。1年に数回来校し、教室の環境検査を行っています。教室の照度はしっかり足りています。水道水は、水道管への直結工事を行ったので、残留塩素の濃度が短時間でしっかり出るようになりました。

まいにち あさいちばん きょうとうせんせい こうない まど しんせん くうき い
毎日、朝一番に、教頭先生が校内の窓をあけて新鮮な空気を入れていきますよ。

